

- ② 若年世帯の住宅購入を支援
- ③ 助成金で若者の雇用を後押し
- ④-⑤ 特集 みつばちと厚木の農業
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ



患者や家族に真摯に向き合う



打ち合わせで情報を共有



患者の元へいち早く駆け付ける

5月12日は看護の日



新採用看護師のオリエンテーション



間違いが許されない現場。複数回の確認が欠かせない



コロナワクチン接種のデモンストレーション

7月30日、8時45分～12時30分。市立病院。病院での看護ケア体験。県内在住在学の高校生20人程度。無料。☎6月11日までに市立病院HPへ。抽選。 ☎病院総務課 ☎221-1570

看護体験 一日

マスク・せきエチケット



3密を避ける



手洗い・消毒



引き続き 感染対策を

☎健康長寿推進課 ☎225-2174

「恐れを抱いた心でできることは、ほとんどありません」。これは、近代看護の母といわれるナイチンゲールが残した言葉です。2021年の今も、ナイチンゲールが築いた看護の意思を胸に、日々最前線で感染症の恐怖と戦う医療従事者たちがいます。彼ら彼女らは、不安が拭えない中で神経をとがらせながらも、笑顔とケアの心を絶やさず、私たちの命や健康を守ろうと奔走しています。

一方、感染症と共にある日々が当たり前になった私たちは、感染症を正しく恐れ続けられているでしょうか。現状に慣れ、恐れを忘れると、対策をつい忘れてたり、おざなりにしていたりすることもあるかもしれません。

5月12日はナイチンゲールの誕生日にちなみ、みんなで看護の心を分かち合おうと制定された「看護の日」です。もう一度自分の行動を振り返り、丁寧な対策を続けましょう。

☎病院総務課 ☎221-1570

Zoom Up

「住み続けたい」と選ばれるまちに

若年世帯の住宅購入を支援

若い世帯の市内への定住は、将来のまちの発展に欠かせない要素の一つです。市では、子育て世帯の住宅購入に補助金を交付。親元への近居・同居の支援と併せ、厚木を居住地に選んでもらうための施策を展開しています。

市内には事業所や大学などが多数あり、多くの若い世代が往来しています。一方、人口の移動状況を見ると、20・30歳代の転入者よりも転出者が上回る状況が続いています（左欄参照）。この世代の転出超過は、将来的な人口減少を招くため、歯止めを掛ける必要があります。市では、子育て世帯の市内での住宅購入を後押しする制度を4月から新たに設けました。

住宅取得に最大40万円を補助

制度の対象となるのは、中学生以下

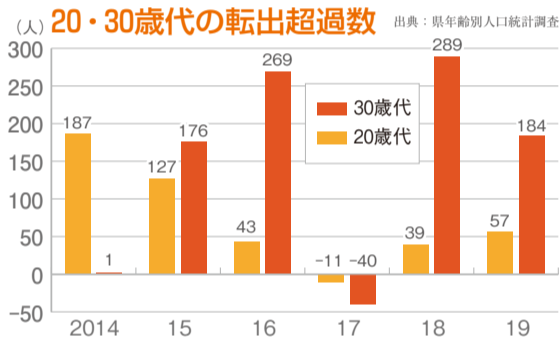


市の補助制度を利用し市内で暮らし始めた新井さん家族

親元への近居・同居で最大100万円

市では2018年度から、市外に住む子世帯が、市内の親元で暮らすため

の子どもを育てる40歳未満の世帯です（左欄参照）。4月以降に市内で住宅を購入し住み始めると、20万円を補助。若者の転出が多い「定住促進地域」への居住や、市内での一年以上の勤務で、それぞれ10万円を加算します。申請できるのは、購入した住宅に転居し住民票を移した後。期限は登記から6カ月以内です。



若年世帯住宅取得支援事業補助金

若い世帯が市内で住宅を購入する費用を補助します。

【対象者】 ①世帯主または配偶者が40歳未満②中学生以下の子どもがいる③3年以上居住予定—の全てを満たす世帯

【対象住宅】 4月1日以降に所有権保存または移転の登記をした市内の住宅・マンション

	補助金額
基本額	20万
定住促進地域*に住宅を取得	10万
1年以上市内に通勤	10万
最大補助額	40万

*依知北、睦合北、荻野、小鮎、玉川、緑ヶ丘、森の里、毛利台1~3丁目、王子1丁目

対象住宅に住民票を移した後、住宅課や市HPにある申請書などを、登記完了から6カ月以内に直接、住宅課へ。

詳しくは [厚木市 住宅 補助](#) [検索](#)

若年世帯の増加は、出生率の向上など、まちに活力を与えます。市では、

いつまでも活気あふれるまちに

の支援も実施しています。近居のための住宅購入は最大80万円を補助。同居による新築や住宅改修には、最大100万円を交付しています（左下欄参照）。これまでに約100世帯が制度を利用し、市内で暮らし始めました。岡田）は「1年前に市外から引っ越してきた。他市を含めて、住む場所を探している中でこの制度を知り、地元に戻る決め手になった」と話します。

住宅購入の補助に加え、子どもの医療費助成や紙おむつの支給などでも子育て世帯を支援しています。今後も、まちの将来を担う若い世代に「住み続けたい」と思ってもらえる施策を実施していきます。

問 住宅課 ☎225-2330

4月1日スタート 市税などが電子マネーで支払い可能に

あつき 元気Wave 5/1~CATVで放送

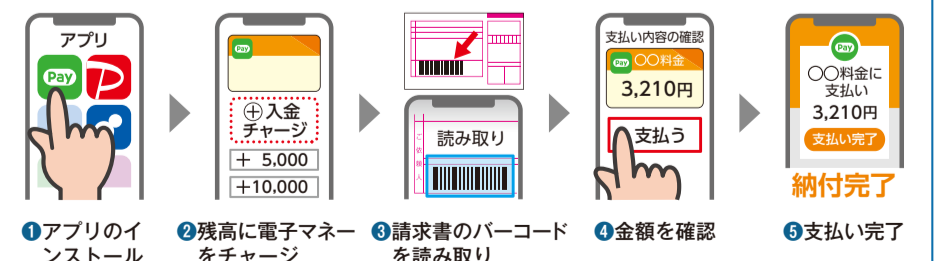


納付書のバーコードをスマートフォンで読み込み、「LINE Pay」「PayPay」アプリで支払えるサービスを始めました。市役所や金融機関などに行かなくても、自宅などで支払えます。

【支払える税金など】 市県民税（普通徴収）、固定資産税・都市計画税（土地・家屋）、固定資産税（償却資産）、軽自動車税（種別割）、国民健康保険料、介護保険料、後期高齢者医療保険料

【使用不可】 ①30万円以上の支払い ②市役所や金融機関、コンビニエンスストアなどでの窓口払い

【支払いに必要な物】 納付書（左下にコンビニエンスストア収納用のバーコードがある物）、「LINE Pay」「PayPay」アプリをインストールしたスマートフォン



問 収納課 ☎225-2020 詳しくは [厚木市 市税 請求書](#) [検索](#)

親元への近居・同居を応援

市外に住む子世帯が、市内の親世帯と暮らすための住宅取得や改修を後押ししています。

【対象者】 ①親世帯が1年以上市内在住②補助対象住宅に3年以上居住予定③購入または工事の契約者—の全てを満たす市外に1年以上在住の子世帯

【住宅取得補助金】 子世帯が市内に家を新築・購入する費用を補助

【住宅改修補助金】 市内の親世帯と同居するために必要な修繕や増築の費用を補助

	住宅取得		住宅改修
	同居	近居	同居
基本額	60万	40万	対象経費の1/10(上限20万)
中学生以下の子どもがいる			10万
子世帯夫婦のどちらかが40歳未満			10万
定住促進地域*に住宅を取得			10万
1年以上市内に通勤			10万
最大補助額	100万	80万	60万(対象経費の1/2以内)

*依知北、睦合北、荻野、小鮎、玉川、緑ヶ丘、森の里、毛利台1~3丁目、王子1丁目

詳しくは [厚木市 親元近居](#) [検索](#)



若い人材の雇用を促し、将来の担い手を育成

Zoom Up

市内産業の担い手不足を解消 助成金で若者の雇用を後押し

市内の企業で働く若者が増えるよう、奨学金を返済しながら市内で働く方への助成金制度を新設しました。若者の人口減少が叫ばれる中で、市内企業が人材を雇用しやすい環境づくりを目指します。

少子高齢化や出生率の低下は、人口減少だけでなく、15〜64歳の生産年齢人口にも影響しています。国内の生産年齢人口は、2014年からの5年間で約318万人減少。企業などの人材確保や育成は、まちの活力を維持するための重要な課題となっています。

市では、市内企業への若者の就職希望者を増やし、将来の担い手を確保できるように、奨学金を返しながら働く方を支援する「勤労者奨学金返済助成金」を導入します。

年間で最大12万円を助成

対象は、市内在住かつ在勤で、大学や専門学校などに奨学金を使って通っていた方です(左欄参照)。助成額は、申請期間の前年に返済した奨学金の2分の1(上限12万円)。最長で7年間受けられます。返済の負担を減らすことで、若者が働きやすい環境をつくっていきます。

市内外から就職希望者が増えると、担い手不足や新卒者の採用が難しいなど、企業が抱える課題の解決につながります。市内で製造会社を経営する黒

柳貴宏さん(41)は「就職希望者が減る中、採用を辞退する人や、短期間で辞めてしまう人がいるため、採用が思うように進まないのが現状。最長7年間支援を受けられれば、早期離職対策となり、企業の技術向上につながる」と期待を込めます。

高い技術を引き継ぐ

活発な産業を維持し続けるためには、若者が増える他に、経験や知識を後世に引き継ぐことも欠かせません。

市では、事業承継や経営権を移す取り引きなどをした企業を支援する「事業承継支援事業補助金」を設置。中小・小規模企業が持つ高度な技術を途切れさせないための施策にも取り組んでいます。

将来にわたり活気のあるまちで在り続けるためには、若い働き手を増やすことや企業の持つ技術を高めることが欠かせません。市はこれからも、培ってきた産業を後世に残す取り組みを進め、産業のさらなる発展を目指していきます。

産業振興課 ☎25-20030

若者を応援 勤労者奨学金返済助成金

《対象》①奨学金を使って大学などに進学②大学などを卒業して5年を経過していない③2022年3月31日時点で30歳以下④奨学金の返済日に、市内企業などで常勤の従業員として採用されてから7年を経過しない⑤22年1月1日に本市に住居登録がある⑥自ら奨学金を返済—などの全てを満たす方

《助成額》21年1〜12月に返済した奨学金の2分の1(上限12万円)

申請 産業振興課や市HPにある申請書に21年1月1〜12月の雇用・貸与・返済証明書などを添え、直接または郵送で22年1月1〜31日(必着)に☎243-8511産業振興課へ。

いつまでも安心して暮らせるように 権利擁護支援センターで 相談を受け付け

認知症や知的障がいなどで判断に支援が必要な方を支える、成年後見などの手続きの相談を受けています。

《取り扱い業務》成年後見制度の相談や市民後見人の養成や活動支援、高齢者や障がい者への虐待の相談、啓発活動など

《場所》保健福祉センター(社会福祉協議会内)

募集 オンライン 市民後見人養成講座

《日時》7月12日〜8月30日(全15回)

《内容》市民が成年後見人として活動する市民後見人となるための知識などを学ぶ(自宅で見られない場合は会場での視聴あり)

《対象》説明動画を視聴した市内在住の25〜70歳

《費用》無料

説明動画で確認。6月30日正午までに市HPから視聴申し込み。



詳しくはこちら

権利擁護支援センター ☎225-2939

3つの助成で 人材確保

医療や介護の 担い手を支援

全国的な高齢化などで医療や福祉サービスの需要が高まっています。誰もが十分なサービスを受けられるよう、担い手に各種助成制度を設置しています。

1 転入奨励助成金

《対象》市内在住で①市内の医療機関や介護・障がい・福祉サービス事業所に就職または勤務する看護職・歯科衛生士・薬剤師・介護福祉士・社会福祉士など②市外から市内に転入—の全てを満たす方

《助成額》20万円

3 復職等奨励助成金

《対象》市内在住で、市内の医療機関や介護・障がい・福祉サービス事業所に復職する看護職・歯科衛生士・薬剤師・介護福祉士・社会福祉士など

《助成額》20万円

2 奨学金返済助成金

《対象》市内在住で①採用後3年未満の市内医療機関や介護・障がい・福祉サービス事業所に勤務する看護職・歯科衛生士・薬剤師・介護福祉士など②奨学金を利用して資格を取得し返済中—の全てを満たす方

《助成額》年上限20万円(最長3年)



看護職・歯科衛生士・薬剤師・管理栄養士は健康長寿推進課 ☎225-2174、介護福祉士・社会福祉士は介護福祉課 ☎225-2240



看護職など



介護福祉士など

詳しくは市HPに掲載

みつばちと厚木の農業

春が来て、花から花へと飛び回る蜜蜂。蜂は蜜を集めながら花粉を運び、野菜や果実を実らせている。特集では、蜜蜂がもたらす農産物と、厚木産の蜂蜜を作る2人の養蜂家の姿を追った。◎農業政策課 ☎25-2801

ここでしか作れない蜂蜜を

養蜂家 柳下 浩幸さん(60・長沼)

何匹もの蜜蜂が代わる代わる飛び立っては、蜜を集めて巣箱に戻っていく。蜂を刺激しないよう、ふたをそとと開けて巣箱を引き上げるのは、養蜂家を営む柳下さん。養蜂家は蜂が集めた蜜を頂いているだけ。蜂が元気で機嫌良く働ける環境を作るのが日々の仕事。蜜の量やさまざまな状態、女王蜂の動きなどを観察する内検は、蜂が働きやすい環境を作るために欠かせない時間だ。

物言わぬ蜂の望みをかなえる

蜂蜜が採れるのは、花が多く咲く春と秋。食料を蓄えて冬を越える蜂は、定期的に様子を見て手助けしなければいけない。蜂は鳴かないししゃべらないから、とにかく観察が大切。どうしたら蜂にとって快適か、自分で置き換えて考える」と柳下さんは話す。巣箱は優しく扱い、蜂が増えて巣が手狭になれば、巣箱を重ねて家を広くする。屋根を剥がして家を揺らされたら誰でも嫌なように、蜂だって嫌がります。自分がしてもらってうれいことをしてあげればい

厚木の自然が詰まった蜂蜜

いくつもの種類の花から蜜を集めた蜂蜜は百花蜜と呼ばれ、地域ごとに味の違いが楽しめる。市内では、春にはサクラやナノハナ、レンゲなどの蜜が多く採れる。厚木の蜂蜜を少しでも多くの人に知ってもらうため、ふるさと納税の返礼品として出品したり、秋の農業まつりに出店したりと、PRに力を入れている。去年はコロナでできなかったけど、今年開催できれば、また出したい。」

木

造りの小さな直売所で、蜂蜜の詰まった瓶に一つ一つラベルを貼っていく。杉山さんは10年前に養蜂を始めて以来、採蜜からの過渡期、梱包まで全て手作業で蜂蜜を生産している。

50年続けた酪農を辞めた

50年続けた酪農を辞めた。農を辞めた、憧れを抱いていた養蜂を始めた。幼い頃から蜂が好きだったが、知識も何もないところからスタートだった。「初めは、蜂は簡単だと思ってたんだ。大間違いだったけど。その言葉のとおり、思いがけないことに苦心した。勝手に蜜を集めてくると思っていたが、冬は餌が必要で、伝染病にもかかる。女

手探りで蜂と向き合う

養蜂家 杉山 勲さん(79・愛名)

王蜂が増えると、働き蜂を連れて出て行く「分蜂」も起こる。気温や群れの状態など、さまざまな変化に目を配らなければならない。病気が分蜂で蜂の数がうまく増えず、初めのうちは失敗が続いた。杉山さんは大量の専門書を読み、紹介されている道具や新しい方法を片っ端から試した。蜂に元気がなければ他の養蜂家に助言を



高台の養蜂場で内検をする

採れなかった。「10年やっても、分からないことだらけ。蜂が快適なようにしてあげられてそれだけのことが、まあ難しい。そう漏らしながらも10年続けてきたのは、手探りの面白さと少しの意地。「冬の管理がうまくいって、蜜がたくさん採れた時はうれしい」。うまくいかない時もあるが、手間暇をかけた分だけ、蜂は元気に蜜を集め、数も増えていく。せっかくなので、すぐに辞めたら格好悪いからね。楽しみにしてくれている人がいると、頑張ろうと思える。杉山さんはそう言って口元をほころばせ、袋に詰めた蜂蜜の瓶をそっと棚に置いた。



1 果樹園に囲まれた養蜂場 2 2019年の農業まつりで、市畜産会養蜂部会として採蜜体験を出店した柳下さん(右)と杉山さん(中央) 3 ナイフで蜜ろうを剥がすと、中には蜂蜜が 4 蜜が多く採れる春は5日に一度巣の様子を確認する 5 巣箱に帰っていく蜜蜂 6 遠心分離機で蜂蜜を抽出する



7



4



1



2



3

みつばちが支える作物

蜜蜂の仕事は、蜜を集めるだけではありません。私たちの食卓に欠かせない果物や野菜の多くは、蜜蜂が花から花へと飛び回ることによって授粉されて実ります。厚木の名産であるイチゴやメロンもその一つ。蜜蜂が実りを支える農産物と、それに携わる人たちを紹介します。



最高の1玉を作る

メロン農家 和田 定通さん(67・戸田)

メロンを生産して40年。作り始めた頃から、柳下さんに蜜蜂を借りています。メロン作りは収穫の時にいかに良い状態に仕上げるかが勝負です。良い土を作り、しっかりと根を張らせ、小まめな室温管理をし、手間暇を惜しみません。栄養を集中させるため、一つのツルに1玉を残して育てていきます。特に気を使うのは水やりです。一回でも量を誤ると表面のネットがきれいな網目にならず、甘みも出ないため、さまざまな変化を見逃さないよう1玉1玉に目を配っています。



メロンの苗を植える和田さん



メロンの花に授粉する蜜蜂

土にこだわったイチゴ

イチゴ農家 杉山 寛さん(69・戸田)

イチゴを栽培する上でこだわっているのは土づくりです。イチゴの味に影響するため、既成の肥料に加え、カニ殻の粉末などを独自に与えています。お客さんのほとんどがもぎ取りのため、紅ほっぺやよつぼし、おいCベリーなど8種類を栽培し、品種ごとに違う甘みや酸味を楽しんでもらえるように工夫しています。蜜蜂が授粉の際に花の上をくるくる回るおかげでイチゴはきれいな形になります。約8千株を手作業では受粉できないので、蜜蜂は貴重な労働力です。



妻の茂子さんとイチゴの株に追肥をする杉山さん



車いすやベビーカーでも楽しめるよう高設栽培を導入

厚木産を味わう

市内で生産された蜂蜜・イチゴは各農家で直売している他、JAあつぎ農産物直売所でも販売しています。

■はちみつ直売所

- ・夢市 ☎290-0141
 - ・JAあつぎ南毛利支所直売所 ☎247-8841
 - ・やまほうし(愛名422) ☎247-0662
 - ・柳下園(長沼46) ☎228-6348
- ※売り切れの場合があります

■イチゴのもぎ取り(5月下旬頃まで)

■メロンの予約販売

- 市内で生産されたメロンは予約販売をしています。
- ☎5月21日～6月10日に、JAあつぎメロン部会事務局 ☎221-2273へ。
- ・わだいちご園(平塚) ☎229-3415
- ・内海いちご園(下津古久) ☎228-6967
- ・清田苺園(戸田) ☎228-6857
- ・杉山いちご園(戸田) ☎090-5213-0922
- ・鈴木農園(妻田東) ☎222-1467



手作業でラベルを貼る杉山さん



店頭に並ぶ百花蜜

市内の名所で桜咲く 市民らが思い思いに春を満喫



厚木南青少年広場付近で撮影

す。かち合っています。以上500件以上の写真が寄せられ、春を分かち合っています。

3月末に市内の桜が見頃を迎え、道行く人の目を楽しませていました。春の恒例行事「あつぎ飯山桜まつり」は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、市内の公園や河川敷などの桜スポットでは、多くの人が互いの距離を保ちながら眺めたり、花びらを拾ったりと、春を満喫していました。

市では今年初めて、春をテーマにしたインスタグラムでの写真コンテストを開催。春を感じる動植物や料理、日常などの写真を「#(ハッシュタグ)厚木の春2021」を付けて共有し、みんなが春を楽しむを試みます。応募は5月31日まで。4月中旬の時点で500件以上の写真が寄せられ、春を分かち合っています。



希望を胸に社会人としての第一歩 厚木商工会議所で合同入社式を開催

新入社員を対象に開催され、今年で36回目。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、2年ぶりの開催となりました。



新社会人にエールを贈る中村会頭

市内企業に就職した新入社員の合同入社式が4月、厚木商工会議所で開かれました。16社から39人が参加し、社会人としての決意を新たにしました。

この式典は、市内の中小企業に就職した新入社員を対象に開催され、今年で36回目。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、2年ぶりの開催となりました。

大規模災害に備えて

災害派遣医療チームの車両をリニューアル

多くの傷病者が発生した災害現場などで治療などに当たる、市立病院の医療チームDMATの車両を整備しました。

車両の費用は、隊員が安心して災害の対応ができるように車両を更新したい思いをインターネットからクラウドファンディングで調達。デザインは、市内企業の日産自動車テクニカルセンターが、いち早く災害現場に駆け付けるスピード感や力強さをイメージして作りしました。市と企業が協力してリニューアルするのは、全国で初めての取り組みです。



車両には医療を象徴する十字が描かれる

夏の水難事故に備えて 相模川で救助訓練を実施

水難事故に備えて市消防本部は4月、相模川の3地点で救命ボートの取り扱い訓練を実施しました。



金田付近の相模川で

訓練は、川での事故が増える夏の行楽シーズン前に毎年実施しています。隊員たちは声を掛け合いながら、水深や流れの速い場所の危険性を確認しました。救命ボートの動作確認や、要救助者へのロープの受け渡しなどに取り組んだ隊員は「水の事故は命に関わる。市内の出勤件数は年々増加傾向にあるため、救助隊の技術も向上させる必要がある」と力強く話しました。川遊びや水辺でのレジャーを楽しむ人が増えるこれからの季節は、特に注意を呼び掛けています。

アツギ X ニュージーランド ホストタウン通信

パラスポーツから 学ぶ共生社会

皆さんは「Unity in Diversity」という言葉を知っていますか。東京大会のメッセージにもなっていて、日本語にすると「多様性と調和」という意味です。

市では、このメッセージを体現するため、昨年11月から「Unity in Diversity NZ Program」を始めました。12月20日にはプログラムの一環で、車いすラグビーNZ代表チームの選手らと市内の高校生らがオンラインで交流。1月以降は、オンラインワークショップで視・聴覚障がい者の立場になり日常生活での課題を議論したり、パラスポーツの魅力を学んだりしました。参加した8人は、事前キャンプで厚木を訪れるNZ代表チームをサポートします。

このプログラムでは今後、障がい者との交流事業やパラスポーツのサポート体験を通じて共生社会への理解を深めていきます。

東京オリンピック・パラリンピック（東京五輪）に向けて、ホストタウンとなったニュージーランドとの交流事業を紹介します。



NZの文化や競技、プライベートの過ごし方などを質問した



詳しくはこちら

ひとまち 元気

市長 小林 常良

新設した歩行者デッキ入り口でテープカット

本厚木駅南口の再開発事業が竣工しました。4月3日に開催した式典では、地域や関係者の皆さんと共に新しい玄関口の完成を祝いました。計画から完成までのおよそ四半世紀の間、関係者への説明や工事管理など、さまざまなご苦労があったと聞き及んでいます。再開発組合の皆さまには改めて、心から感謝を申し上げます。

南口には、象徴的な新しい建物と

再開発事業は、完成すれば終わりではなく、これからのまちづくりの始まりだと認識しています。厚木により多くの皆さんが訪れ、好きになっただけでなく、これからも全力を尽くしてまいります。

変わりました。リニューアルを起爆剤として、本厚木駅北口や中町第2地区などの周辺地域を含めた中心市街地が、より活性化すると確信しています。

さらに、駅前広場の一般車乗降場や歩行者デッキが新設され、車と人の動線が分かれたことで、より安全・便利に生まれ変わりました。

ビル「本厚木ミハラス」が誕生しました。住居施設の他、今後は商業・業務施設もオープンします。さらに、駅前広場の一般車乗降場や歩行者デッキが新設され、車と人の動線が分かれたことで、より安全・便利に生まれ変わりました。

タウンガイド

5月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ☎=ファクス番号 ☎=Eメール HP=ホームページ
 ○=講座予約システム(○印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「○印」と記されたものは、申し込み可)
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「新たな厚木の象徴」

#4月2日撮影
 #本厚木駅南口
 #リニューアル
 #niceatsugi
 広報課公式インスタグラムで公開中



新型コロナウイルス感染症に関する県の相談窓口

新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル(24時間対応)

感染の不安のある方、健康・医療・診療できる医療機関の案内など(発熱等診療予約センターは3月末で終了)

☎0570-056-774

新型コロナウイルスの影響で掲載の催しが中止となる場合や、利用に制限のある施設があります。市HPで随時お知らせします。

スポーツなじみDAY

5月15日、10時～15時30分。荻野運動公園。気軽に楽しめるニュースポーツを体験。屋内=バウンスポール、キンボール、ドッジビー、体力チェックコーナーなど。屋外=ターゲット・バードゴルフ、グラウンド・ゴルフなど。雨天時は屋内種目のみ。室内履きをお持ちください。無料。☎当日直接会場へ。☎スポーツ推進課☎225-2531。

日本赤十字社の活動に協力を

5月は会員増強月間です。日本赤

十字社の活動は、皆さんの寄付で運営されています。昨年度は、市内で1566万6347円の寄付がありました。☎福祉総務課☎225-2200。

5月は「あつぎ子ども月間」

家族との時間を大切にすると共に、地域全体で子育てへの関心・理解を深めて支え合いましょう。☎こども育成課☎225-2262。

5月12日は 民生委員・児童委員の日

民生委員・児童委員は地域の身近な相談役です。高齢者や障がい

市民活動をサポートします

■市民協働提案事業

地域が抱える課題解決などのため、市民と市が協力する事業と、一緒に取り組む団体を募集します。

市民提案型事業=事業は団体が提案、行政提案型事業=対象の事業
 ①外来種駆除協力事業②地球温暖化防止・省エネ行動普及啓発事業

《対象》①市内に活動拠点がある②3人以上の役員を置き、構成員の5人以上が市民③運営に関する会則があり、適正に会計処理している一などの要件を満たす団体《負担額》対象経費の100%(上限200万円)

◆市民活動推進補助金

ボランティアなどの公益的な活動をする団体に、事業費の一部を補助します。

《対象》①不特定多数の市民の利益増進が目的②市内に事務所や活動拠点がある③構成員が3人以上一などの要件を満たす団体《補助額》対象経費の3分の2(上限15万円)

いずれも負担・補助額は提案・申請回数で異なる。☎市HPなどで手引きを確認し、6月4日までに市民協働推進課☎225-2141へ。■は5月28日までに事前相談が必要。



市民協働提案事業「フードバンク」

募集 学生の視点でまちに活気を あつぎにぎわいアドベンチャー隊

市のイベントを企画・運営したり、まちの魅力をPRしたりする大学生を募集します。

《対象》市内5大学(神奈川工科・松蔭・湘北短期・東京工芸・東京農業)に通う学生

☎電話またはEメールに氏名、学校名、学年を書き、商業にぎわい課☎3800@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

《アドベンチャー隊とは?》

市内5大学の学生が、まちを盛り上げるため、市と協働でイベントの企画・運営などをする団体です。

《活動内容》

例年秋に開催される「あつぎハロウィーン」の企画・運営の他、昨年度は感染症対策に取り組む飲食店などを紹介する動画を作成しました。



ハロウィーンでは隊員がパレードを先導

☎商業にぎわい課☎225-2840

者、子どもに関する相談など、福祉のことで困ったときは、気軽に相談してください。地域を担当する委員の確認は、福祉総務課☎225-2200へ。

経済センサス活動調査に協力を

事業所や企業の活動状態の把握のため、調査員が訪問して調査票を配布します。

《調査票配布期間》5月20～31日
 《回答期限》6月8日まで《回答方法》インターネットまたは郵送。☎行政経営課☎225-2180。

フードバンクの活動に協力を

食品ロスを減らすため家庭で余った食品を募集します。回収した食品は必要な家庭に無償で提供します。

《日時》水曜、第3日曜。10～15時
 《会場》フードバンクあつぎ事務所(中町1-8-10)。☎当日直接会場へ。☎Heart34☎080-6602-2163(10～15時)。

電話機などの購入費を補助

振り込め詐欺などの特殊詐欺の被害を防ぐ、迷惑電話防止機能が付いた電話機などの購入費を一部

補助します。

《対象者》市内在住の70歳以上が属する世帯《対象機器》呼び出し音が鳴る前に自動で警告メッセージが流れ、通話を録音する機能を持つ固定電話(電話回線に問わず機器で同じ機能を持つ物も可)で購入日から3カ月以内の物
 《補助内容》①購入経費の3分の2②6000円—のいずれか少ない額。1世帯1台限り。☎セーフコミュニティくらし安全課や公民館にある申請書を、直接または郵送で1月31日(必着)までに〒243-8511セーフコミュニティくらし安全課☎225-2148へ。

市政情報コーナーの移転

本庁舎1階から3階に移転しました。☎行政総務課☎225-2184。

全国瞬時警報システム(J-ALERT) 全国一斉情報伝達試験

J-ALERTの確認のため、防災行政無線で試験放送を実施します。

《日時》5月19日 11時～

気象状況により中止の場合あり。

☎危機管理課☎225-2190

参加者募集 さつきラン&ウォーク

スマートフォンアプリを使って、5月中にどれだけ歩き、走れたかを計測し、全国・自治体ランキングを競うイベントです。気軽に楽しみながら運動できます。

☎スポーツ推進課☎225-2531

《期間》5月1～31日 《費用》無料
 ☎右の二次元バーコードを読み込み参加登録。詳しくは市HPに掲載。



インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集
 厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報課☎225-2043

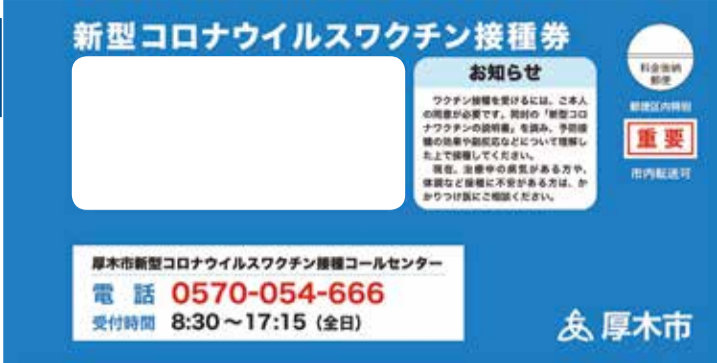
4月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆従来のHPは、窓口に向かなければ詳しい説明や手続きが完結しなかった。脱却していることを期待/40代女性 ◆地域交通の問題は深刻なので、早い実現を望む/50代女性 ◆駅前が発展が楽しみになった。厚木のイメージアップにつながりそう/30代女性 ◆待ちに待った駅周辺の道路整備や商業・業務施設のオープンで、今後の発展が楽しみ/60代男性 ◆早くコロナワクチンをみんなが接種できるといい/40代女性

編集後記

私は生まれも育ちも厚木ですが、この特集を組むまで市内で蜂蜜が作られていることを知りませんでした。取材中に教えてもらった「蜜蜂の群れはほとんどが雌」「4ヶ先まで花蜜を採りに行く」「1匹の働き蜂が一生で集める蜜の量はスプーン1杯分」などの蜂の生態にはただ驚くばかりで、「知らなかった」「なるほど」と何度も繰り返してしまいました。今年には地元の蜂蜜を味わってみたいと思います/前場

新型コロナウイルスワクチン 高齢者接種券の 発送日を変更



封筒には接種券、予診票2部、チラシ2枚を同封

集団接種スケジュール 5～9月上旬
会場 常設=保健福祉センター
巡回=14公民館
時間 10～16時(公民館の土曜は
13時30分～16時)

ワクチンの供給状況によ
り、接種予約の混雑緩和の
ため、右表のとおり段階的
に接種券を送ります。

◆ 発送・予約開始順

	発送	予約開始
85歳以上	4月26～30日	5月10日
75歳以上	5月10～15日	5月17日
65歳以上	5月17～22日	5月24日

予約は各日8時30分から開始

インターネット予約 スマートフォンやパソコンから、市の専用予約サイトで予約できます。

1 市HPから専用予約サイトへ



1 市HPから感染症
集約ページを開く

2 専用予約サイト
を開く

2 接種券を見ながらログイン



3 接種券番号(10桁)を入力
4 接種する本人の生年月日を入力

3 案内に沿って会場や日時などを選択



5 画面の案内に
沿って、接種会
場や日時を選択。
氏名、電話番号
などを入力し予
約完了

※1・2回目の予約
が可能

※画面はイメージです

電話予約 市のコールセンターで電話予約できます。

- 1 接種券を手元に用意
- 2 市新型コロナウイルスワクチン接
種コールセンターに電話
- 3 案内に従って、接種券番号、生年
月日、接種希望会場、日時、氏名、
電話番号などを伝える
※1・2回目の予約が可能
- 4 予約できた日時などを、封筒の裏
面などに書き留める



0570-054-666

受付時間 8時30分～17時15分(全日)

※コールセンターでは、予約だけでなく
ワクチン接種に関する相談も受け付け

事前に確認 ワクチンの効果

ワクチンの接種を受ける前に、効果を確認しておきましょう
(詳しくは市HPに掲載)。

- 1 発症予防
接種していない人に比べ、発症のリスクを減らせるとい
われています。
- 2 重症化予防
接種した人は、発症しても重症化しにくくなるといわれ
ています。

 新型コロナウイルスワクチン接種コールセンター  0570-054-666

自然歳時記

● キビタキ ●
ヒタキ科

全長13.5センチほどで、スズメよりも小さい。
初夏に渡来し森でさえずり始める。雄は黒
と鮮黄色、雌はオリーブ色と、共に姿が美
しい/あつぎこどもの森公園で見つけた。
写真・文/吉田文雄



「ピーリリポッピリリ、ポッピリ
リ」。初夏の雑木林に、優しいメロ
ディーが響き渡る。中空の枝に目
をやると、雌のキビタキが気持ち
良さそうにさえずっていた。
散策路を歩いていると、キビタキ
が、杉皮や落ち葉を熱心に集めてい
た。巣作りの準備だと思って見て
いると、そこにスズメが通り掛かっ

た。すると、くわえていた巣材をポ
イッと捨て、何食わぬ顔でスズメに
背を向けた。スズメが通り過ぎる
と、再び巣材を集めて飛び去った。
相手に巣の存在を気付かれない
よう、細心の注意を払うキビタキに
親心を感じた。愛鳥週間のある5
月、自然の中で生きる野鳥に優し
く、人にも優しくありたいと思う。

厚木市の人口
(4月1日現在)



世帯数 10万1903世帯(前月比578世帯増)



人口 22万3762人(前月比84人増) 男11万5718人・女10万8044人